平成27年５月19日

平成27年

第５回大田区教育委員会定例会会議録

大田区役所　　教育委員会室

平成27年第5回大田区教育委員会定例会会議録

平成27年5月19日（火曜日）

１　出席委員（６名）

尾　形　　　威	委　員	委員長
芳　賀　　　淳	委　員	委員長職務代理者
横　川　敏　男	委　員	
藤　﨑　雄　三	委　員	
鈴　木　清　子	委　員	
津　村　正　純	委　員	教育長

２　出席職員（10名）

教育総務部長	勢　古　　勝　紀
教育総務課長	水　井　　　靖
副参事（教育政策担当）	曽　根　　暁　子
副参事（教育施設担当）	酒　井　　敏　彦
学務課長	森　岡　　　剛
指導課長(幼児教育センター所長兼務)	菅　野　　哲　郎
副参事	長　塚　　琢　磨
学校職員担当課長	室　内　　正　男
教育センター所長	岩　田　　美恵子
大田図書館長	五ノ井　　巖　暢

計　10　名

３　日程

日程第１　教育委員の報告事項

日程第２　部課長の報告事項

~~~~~~
~~~~~~

（午後２時開会）

○委員長

ただいまから、平成27年第５回教育委員会定例会を開催します。

本日の会議に出席する職員氏名の読み上げをお願いします。

○事務局職員

本日の出席職員の氏名を読み上げます。

勢古勝紀教育総務部長、水井靖教育総務課長、曽根暁子副参事（教育政策担当）、酒井敏彦副参事（教育施設担当）、森岡剛学務課長、菅野哲郎指導課長、長塚琢磨副参事、室内正男学校職員担当課長、岩田美惠子教育センター所長、五ノ井厳暢大田図書館長、以上10名でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

本日は、傍聴希望者がおります。委員の皆様に傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○委員長

傍聴を許可いたします。

（傍聴者入室）

○委員長

大田区教育委員会傍聴規則第７条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、又は拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。御協力、よろしくお願いいたします。

次に、会議録署名委員に芳賀委員を指名します。よろしくお願いいたします。

本日の日程第１について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第１は、「教育委員の報告事項」でございます。

本日は、尾形委員長と津村教育長より御報告がございます。

はじめに、尾形委員長から御報告をお願いしたいと思います。

○委員長

それでは、まず私より御報告いたします。

私は、何か発表するときにはプレゼン（注：パワーポイントによる資料のこと。以下同じ。）をつくって、それを発表しています。こういう形でいつもしておりますので、それで今回発表すると。プレゼンをつくっていましたら、委員会事務局の方が、では、委員長、プレゼンでやってみたらいかがでしょうかということでなりましたので、プレゼンで発表をさせてください。

読書をすると心が豊かになる、そして読書すると学力が高まる、読書すると豊かな生活が送れると言われています。しかし、今、活字離れ、そして読書離れが、依然として大きく叫ばれております。今、改めて読書について考えてみたいと思っております。私は、読書は心や体の栄養であり、ビタミンであり、しかも豊かな生活を送るもとになるのかなと考えています。今回は学力と心、その面に絞ってお話ししたいなと思っております。

これは、実態調査なのですけれども、子どもたちの読書量調査結果です。昨年度１か月間で何冊読んだか、そして１か月間で１冊も読まなかった児童・生徒はどのぐらいいるのかというものです。見方はいろいろあると思うのですけれども、私は、高校生が１か月間に１冊も読んでいない子どもが約半分いるということは、大きな問題なのかなと思います。

それはなぜかというと、読書は本を通してやはり心を育てるという面があるから心配になります。これは16歳以上の方の不読者、要するに１か月間に１冊も読んでいない子ども、大人がどのぐらいいるかです。これは、文化庁の調査結果ですけれども、平成14年から25年にかけて毎年不読者数が増えています。やはり、今、本離れが進んでいるのかなと思います

東京都の昨年度の学力調査と読書時間との関係を調べました。これは、東京都のホームページに載っております。読書する子どもの得点、それから読書していない子どもの得点、時間数も入っております。黄色の部分があるのですけれども、読書していないところなのですけれども、このように国語だけだったらわかるのですけれども、国語、社会、算数、理科、全てが本を読んでいる子どもたちのほうが高得点になっています。やはり、読書というのは学力と大きく関係しているということがここでわかります。

今こそ読書というところに入っていきますけれども、どうしたら子どもたちが本好きになるのでしょうか。こういう言葉があるのです。子どもの本好きは、保護者や先生によってつくられるという言葉があります。私の経験からも、保護者が本を読んでいたり、図書館に連れて行ったり、そういうお子さんは本好きの子が多いです。そしてまた、先生が本が好きだとその学級は本好きが多くなる、こういう関連性もあります。ですから、本に親しんで、そして子どもたちにそれを紹介してやるということが大事なのかなと思います。

学校における読書活動について考えてみます。別の資料で、６枚にわたって資料をつくりましたので、この部分については今日は時間がないので割愛させていただきます。またいつか機会があったらお話ししたいです。先生方にお願いしたいのは、授業をやったとき、例えば物語だったら、その作者の本を紹介して、その本を一緒に読みます。そんなことが大事になってくるのです。

次に、学校・学級での工夫です。本好きにする、その工夫です。まず、本好きにする取り組みの１番目は、朝読書です。これは、授業が始まる前に、全て全員の子どもが本を読むと、こういう時間です。大田区教育委員会は、政策により全ての小・中学校で、１週間に１回以上は朝読書を実施しております。この朝読書は、本当に子どもたちが読書意欲を高めて、そして読書を習慣化する、いい取り組みかなと思います。この朝読書をもっと効果的にするためには、前日までに読む本を決めておくということが大事かなと思います。朝読書をすると、落ち着いた状況で本を読みます。ですから、落ち着いた状況で次の時間に入ると、こういう効果もあるようです。

取り組みの２番目は、読み聞かせです。読み聞かせをすると、子どもたちの読書意欲が高まって、そして、いろいろなジャンルの本を読むようになります。子どもたちは、読み聞かせが大好きです。なぜ好きかというと、やはり大好きな先生の愛情が読み聞かせを通して伝わってくるのです。ですから、いろいろなところでやってほしいです。授業の合間にちょこっと読み聞かせ、それからいろいろな活動の中でちょこっとの読み聞かせをして、子どもたちをいろいろな本と出会わせてほしいなと思っております。

次は、取り組みの３番目です。本の紹介です。本の紹介は、普通に本の紹介をする場合と、あと、次にここにブックトークと書いてあるのですけれども、あるテーマをもって、そしてテーマに沿って幾つかの本を紹介します。こういうのをブックトークと言います。

ビブリオバトルですけれども、最近、よくこの大会が開かれています。中学校・高校がかなり今力を入れております。ビブリオバトルというのは、数人で行う本の紹介ゲームです。５人ぐらいで本の紹介のゲームをして、そしてあとチャンプ本を決めます。

あとそのほか、読書というと、物語や文学的作品を読むだけではないのです。図鑑とか、それから科学的な読み物とか、それから生き物の命の誕生、そういうものも読書です。ですから、いろいろな時間で本の紹介をしてほしいです。そして子どもたちにいろいろなことを学ばせてほしいなと思っています。

これは、あるところの紹介コーナーです。こういうふうに本の紹介コーナーへ行くと、子どもたちはこれを見て、これは楽しそうだな、そんな意欲が出るのではないでしょうか。

これは、時間がないので省略しますけれども、ストーリーテリングです。「素話」とか「語り」とかという意味です。話を全部覚えて、そして身ぶり手ぶり、表情、体全体を使って説明します。これも子どもたちがとても好きで、読書意欲が高まります。

このように、読み聞かせとか本の紹介とかをいろいろな場面でして、子どもたちの意欲を高め、そして読書習慣をつけるのが大事です。その場合は、継続的にやるということが大事になってきます。

次は、家庭・地域への工夫です。本が好きな子どもを見ていると、小学校に入る前から本と親しんでいる子が多いのです。例えば保護者がいっぱい読み聞かせをしてあげる、それから図書館を利用している、こういう場合が多いです。保護者によって読書好きがつくられると、こういう言葉にもありますけれども、学校・家庭・地域で子どもたちの読書環境を豊かにしていきたいなと思います。

地域・家庭と連携した読書活動です。地域または保護者には、子どもたちに本を読んでもらいたいと思う方がたくさんおります。その方々の力を借りて、やはり子どもたちの読書環境を豊かにしていくということが大事になってきます。

具体的に申し上げますと、私が赴任したＡ校は読み聞かせグループがありました。すばらしいグループでした。活動も活発でした。年３回の土曜日の読み聞かせ会、それから毎週１日、休み時間の読み聞かせをやっていただいていました。私も必ず参加して、そして子どもたちがなるべく参加するように奨励しました。

そこで気がついたのは、自由参加ですので、本を苦手な子ども、興味・関心の少ない子どもはあまり参加しないのです。そこで、そのグループの方々にお願いして、授業の中で、朝読書の中で、そのグループの人の読み聞かせをしていただきました。そうしたら、

読書の苦手な子どもの参加が少なくなりました。

次のシステム２の図書館整備のグループですけれども、これはまだ立ち上がっていませんでした。地域や保護者に呼びかけて立ち上げました。基本的には自分が来れるとき、来れる日、来れる時間帯に来て活動すると、そういうふうにしました。そうしたら、本当に数カ月で見違えるような図書館になりました。この右側の写真が来てやっていただいている写真です。そして、その図書館整備グループの方々によって休業日の図書館開放、こういうふうに発展しました。

そこで気をつけていたのは、３月に、ありがとう月間というものを立ち上げましたので、そのときに地域のボランティアの方々全てに来ていただいて、表彰状をお渡ししたり、それから子どもたちの感謝の手紙、そういう取り組みをさせていただきました。

先週の土曜日、矢口小学校の学校公開に参加させていただいたのですけれども、そのときも、地域のボランティアの方ありがとうという手紙があって、やはりこういう細かいことですけれども、取り組みがやはり学校と地域がさらに発展していくのかなと、そんなことも思いました。

次は、家庭との連携ですけれども、読書環境を整える上で大事なことは、子どもの家庭での生活の中で、いかにして読書時間を確保するかということだと思うのです。そのために取り組みとして次のようなことを、まず最初に、家族読書を奨励しました。そのときにはおすすめの本を紹介しました。

次に、二番目は、家庭での20分間読書を奨励しました。このときにはノーテレビ、ノーゲームということをお願いしました。

次に、学校・家庭・地域でもって読書月間を設定して、６月と10月は読書月間ということで、学校の校門にのぼりも立ててキャンペーンを実施するなど、いろいろな運動をしてきました。

それから、次に読書の日の設定です。毎月１回、読書の日を設定して、その日はノーテレビ、ノーゲームの日で、そして親子のふれあい、家族のふれあい、そういうことをするのも一つの方法かなと考えました。

次に、公立図書館との連携ですけれども、大田区には多くの公立図書館があります。公立図書館があり、いろいろなお話し会、読み聞かせ会をしていただける団体もあります。この方々の願いは同じだと思うのです。子どもたちに本を読んでもらいたい、読書習慣をつけてもらいたい、それから、図書館でいえば図書館を活用してほしいです。これらの団体は、いろいろなすばらしい読み聞かせ、それからお話し会などをしていただいていて、本当にありがたいなと思っています。

これからやはり考えていくのは、そういう団体をもう少し広げて、学校や幼稚園や保育園、その後放課後学習教室もあるかもしれません。そういうところと手を携えていく必要があるかなと思います。それは本が苦手な子、それから家庭の事情でそういうところに行くことができない子どもも多いと思うのです。ですから、全ての子どもが本を好きにさせたいです。そのためには、学校や幼稚園、保育園、そういうところで、全ての子どもにそのすばらしいお話を聞かせて、そして本好きにしていただければなと思います。

今回、大田区教育委員会のほうで、公立図書館の方々が各学校に70時間支援をするという政策が決まりました。これは、とてもいい政策かなと思っています。その中で、図書館

の整備、環境、その部分からもう一歩、授業のほうまで発展するとすばらしいなと思います。この取り組みが、さらに子どもたち一人ひとりが本好きの一つの大きなきっかけになるのかな、そんなふうに期待しております。

これは、ある学校の取り組みです。１年間、学校・家庭・地域で本を読もうという目標で努力したら、１年間で本の貸し出し数が2.3倍になる。そして、次は子どもたちが本を好きになりました。１年間で19％アップして、90％の子どもたちが本を好きになるという結果がわかります。

学校・家庭・地域が一緒になって本好きにする、そういう思いでやっていくと学力が向上し、子どもたちの心が育っていくのかな、育てていきたいな。本好きな子にする、そのことはおおた教育振興プラン2014の実現にもつながる。みんなでもって、子どもたちの読書意欲を高め、読書習慣をつけていきたいな、そんなふうに思っております。

以上です。

長くなりましたけれども、それでは、私の報告に御意見・御質問はありませんか。

○横川委員

大変興味がある、おもしろい。おもしろいと言ったら失礼ですけれども、大変参考になりました。親が家で本好きというのが、やはり子どもを一番本好きにさせると委員長が今おっしゃったのですけれども、確かにそうだなと思いました。親が率先して本を読むということだろうと思うのですが、その辺どうでしたか、取り組みとして。親御さんにそういう方向性。

○委員長

やはり学校は組織体ですので、学校が組織を上げて子どもたちに本を読もう、そして読書の紹介などをしていくと、自然に親も読むようになります。保護者が読書をすると子どもも読書するというのは、いろいろな実態調査からもうはっきりと出ているようです。

○教育長

その関係で、おもしろかった、最近読んだ本なのですけれども、おもしろい話があって御紹介します。福井のある小学校では、月１回子どもたちに読書感想文を書かせるのだそうですが、それを提出するときに、同時に親が読書感想文を書いて出すのです、子どもだけではなく。まさに委員長がおっしゃるように、親自身が、つまり親子で読書を楽しんで、しかも、それをまた読むだけではなく感想文にまとめ、それを出すと。まさに親が手本を示している。

○委員長

ありがとうございました。

○藤﨑委員

質問が１個あって、その前の話、横川委員がおっしゃったことで関連すると、これはうちの体験談なのですけれども、本をどうやって読ませようかということで、いろいろ工夫

をしたことが昔ありまして、一つはまず半強制です。とにかく１カ月で何を読むのだと先にタイトルを自分で探してきて、それを書いて、お互いに表明し合おうとか、簡単な感想文を書いて、お互いに読もうと。子どもが多いので、そういうことでやったのですけれども、ほとんどうまくいきませんでした。

唯一、恥ずかしい話なのですけれども、家内から言われたことは、だって私たち読んでいないじゃんという。それがまず。で、読ませようというのはおかしいよねという話になって、何をやったかというと週に１回、日曜日の夜に読書タイムというのをつくったのです。これは、食事をし終わったら片づけは後回しにして、テーブルの上だけ片づけて、全員が好きな本を持ってきて、寝転んでいようが、立って読もうが、歩きながら読もうが、それは自由と。ただ、そのとき１時間ということにしたのですけれども、１時間は全員がどこにいるかというのがわかるスペースの中で何かをやっている。当時、一番下の子はまだ本を読める状態ではなかったので、その子はジグソーパズルやっているとか自由だったのですけれども、結局、私たちが本を読むというのを見える状態でやったという、それが唯一長続きしたパターンでした。なれてくると１時間という時間はもう関係なく、終わってもずっと読んでいる子とか、学校に行って休み時間に読み始めた子とかというのは実際に出てきて、そのときにはやはり自分の中で、北風アプローチ（注：イソップ物語の「北風と太陽」のこと）はだめだったというのがわかって、自分でやらないとだめなのだというのは、それはわかったということが一つ。これは、おっしゃっていたことが実際にあった話です。

もう一つ、私の中で、委員長にちょっと教えていただきたいと思ったのが、学校のほうでの読み聞かせ、それからこの図書館の整備グループについてちょっとお伺いしたいのですが。具体的に、保護者で何かお手伝いしたいというのがいろいろあって、図書館を整備しましょうという中で、一番簡単なのは読む環境をしっかり整えることで、掃除をするとか、きれいに並べるということは、これは誰でもできるのですが、実際に、どういう図書というのを子どもたちに勧めたい、ないしは手にとれるところに並べかえようかというときに、大人が子どもに読ませたい本と、子どもは子どもで読みたい本というのは必ずしも一致していないとか、あとは、大人が読ませたい本というのも、大人自身もなかなかわからないというときに、素人だけでやる場合に、どういうところに観点を置きながらやればいいのかなとか、具体的に、どういうことが事例として、委員長が御存じの中で、図書整備グループが具体的にやったことというのをもし御披露いただければ、教えていただければと思います。

○委員長

図書館整備グループがやったことは、まず最初に委員が言われた掃除ですね。それからあと、図書の整理・整頓でした。それから、やはりだんだんモチベーションが上がって、次にやったのが自分たちでお勧めの本というコーナーをつくって、毎月お勧めの本をやりました。それも、本当に読みたいなと思う形でセットをしました。今度、その後は、そのグループは図書館の全面を使って、要するに装飾です。上の部分にも装飾が入りました。そして、その次が今度、図書館の配置の仕方も、この本を読んでもらいたいなというのを特別に題名で見やすくするとか、そういうところまでやりました。

次に、今度はお勧めの本です。何を勧めるか、そのポイントです。それが非常に難しいみたいで、そこで、私に聞かれたので、いろいろな学校で、そしていろいろな先生が、いろいろなお勧めのものをやっているということで、それを全部集めました。それで集めて、分担して読みます。そして、その後にお勧めの本をつくって、そして置いていきました。保護者や地域の熱心な方というのは本当によく勉強するのです。そして、いろいろなところでいろいろなアイデアが出て、どんどん素敵な図書館になっていきました。だから、そこで大事なのは、学校がそれを上手にコーディネートするのです。そこがポイントなのかなと思います。保護者・地域の方々に感謝・感激です。

○藤﨑委員

ちなみに今のお勧めの本なのですが、これは大人がお勧めの本といったときに、必ずしも図書室とか図書館にあるとは限らないですよね。これは、持ち寄ってということですか。

○委員長

持ち寄ってですね。

○藤﨑委員

なるほど、なるほど。そこの中で選ぶのではなくて、持ち寄ってもいいということですね。

○委員長

それで、そのお勧めの本は、さらに読んでもらうために読み聞かせの会というものがありまして、それは木曜日にやっているのです。それからあと、朝読書でもその方々がやっているんです。その読み聞かせのときに、その本の一つを読んであげます。そして読んだ後に、図書館のあそこに置いてありますからとちょっと案内するのです。そうすると、そこに置くと子どもたちが非常に集中してそちらに行くという形になります。

そのＡ校は、さらによかったのは、その後に絵のとても上手な人がいたのです。その絵をふんだんに活用して、いろいろなところに掲示するというところがすごくよかったです。子どもの読書意欲が高まりました。

○藤﨑委員

図書館と、そして足を運ばせる工夫をいろいろとやったということですね。なるほど。ありがとうございます。

○鈴木委員

いろいろ聞かせていただいて、ありがとうございます。たくさん参考になることがございました。今、ほかの委員からも御意見出たのですが、感想も含めて申し上げますと、藤﨑委員がお話しいたしました、家族でという部分なのですよね。やはり、見ていますと家庭生活の中で、昔から言われる親の背を見て育つという部分ですね。一緒にやるというこ

とがとても大切なのかな。何事も環境が大事なのだなと。これは読書だけに限らず、一緒に楽しむということだろうなとつくづく思っております。

私自身が、ちょっとほかで聞いたお話で興味があって、書きとめておいたことがあるのですけれども、幼児から本に親しむことをずっと継続して発展に繋がると思うのです。

まず３、４歳ごろの幼児を扱うときに、いつも寝る前に保護者が本を読んであげるだとか、そういうことをするのが多いかと思うのです。これは、特別なことではなくて昔から絵本を読んであげたり、あるいは昔話をしてあげたりということが多かったと思うのですけれども、そういう中で、本を読みながら、保護者の方がそのまま読むのではなくて、「どうしてだろうね」だとか、クエスチョンを入れながら読むと、一緒に考えることができるから非常にいいのだという話を聞いたことがあるのです。

本を読みながら、一緒におしゃべりということで、これは欧米だったかな、何かで伺った話なのですが、とてもいいことだなと思いました。ただつらつらと読むということではなく、読むだけでもよろしいかとは思うのですが、会話を入れていくということがとてもいいのかなと考えました。

それと、あとは先ほどお話がありました連携をとるという部分なのですが、今、学校や地域・区でも「おおたっ子ひろば」など、読み聞かせをお願いしていますし、ボランティアも大変増えてきています。そういった方たちの活躍がとても目覚ましいものがあって、私も子育て支援の中で、お手伝いしたりしているのですけれども、お願いした方々は非常に読み聞かせの研究をちゃんとなさっているのです。どういう話し方をしたらいいのかみたいな。声のトーンですとか、間ですとか、様々なことをちゃんと研究なさっていて、逆に、自分の発表の場みたいになって、ぜひやらせてくれということもありますけれども、そういった方たちを大いに活用していくということも大切なのかなと思います。

もう一つ学校の中で発展していくというものには、自分が読んだ本をもとにして、例えば、ペープサートをつくってみるとか、紙芝居であったりですとか、あとは劇にしてみるだとか、そういったものに発展していくとなかなかおもしろいのかなと、お話を伺っていてそんなことを考えました。

多分、学校ではいろいろ工夫してやっていらっしゃるのだと思いますけれども、そういった家庭と地域と学校との連携で生かしていく。多くの方々に「こんなことをしているよ、ぜひ一緒に乗ってくれないか」ということを広報し、しっかりやっていければいいのかなと感じました。

○芳賀委員

では、二つ、お話ししたいことがあります。

一つは、朝の読書運動について。これは、みんなでやる、毎日やる、好きな本でよい、ただ読むだけということで、20年ぐらい前から広がってきた運動なのですけれども、私も学校公開に行ったときに、その現場にいたことがあります。学校じゅうがシーンとしていて、ページをめくる音しか本当に聞こえてこなくて、とてもあれはいいものですね。子どもたちが本に親しむというか、集中しているということが伝わってきますし、また、気持ちを落ちつけて穏やかに授業を迎えられる効果もあるのだろうと思っております。ぜひ、もっと広げていただきたいなと感じています。

もう一つは、幾つか既にコメントも出ているのですけれども、読書感想文についてです。私は、自分ではかなりの本好きだと思っています。子どものころからかなりの本好きでした、間違いなく。ただ、読書感想文は苦手、もしくは嫌いでしたという感じなのです、今思い出してみると。夏休みの宿題になることが多かったのですけれども、課題となっている本がおもしろかったなと思うときは比較的問題が少ないのですが、残念ながら、おもしろく感じられなかったときに非常に困るわけです。子どもなりに、〇〇審議会推薦みたいな帯がついている本を果たしてつまらなかったということを書いてよいものだろうかというプレッシャーは、やはり感じるわけですね。そうすると、なかなか筆が進まなくて８月31日が近づいてくる、あの嫌な感じが今でも思い出されるわけなのです。

こういうのは私だけかなと思ってちょっと調べてみたら、そうでもないのです。グーグル検索で、読書感想文、嫌いと検索かけると43万4,000件ヒットするのです。それで、特にやはり課題図書型、課題の図書を指定した型の読書感想文に対する批判が多いのです。読書感想文を書かせることが読書を嫌いにしているという意見は結構目立つのです。

それで、また先ほどの朝の読書運動に戻るのですけれども、やはり朝の読書運動が子どもたちに抵抗なく受け入れられているというのは、ただ読むだけという要素が大きいのだろうなと私は感じているのです。他方、感想文を書かせること自身は、作文をするという能力を鍛えるという別な要素もあるので、もちろんやる必要とか、やったほうがいいということはあるのですけれども。

それで、私が考えるには、指導にあたる先生方にお願いしたいことが三つあります。

まず第一は、できれば感想文を書かせる本は自分で選べるようにしていただきたい。自分がおもしろいと思った本を書くように、できればしていただきたいということ。

あと二つ目は、原稿用紙に字を書くというのはかなりハードルが高いし、原稿用紙の白い海を見ると悲しくなるという気持ちがやはりあったりするので、もう少し軽い感じで、例えば友達同士で感想を言い合うみたいなスタイルというのを取り入れるということにして、ハードルを下げるということもやっていいのではないかなと思っているのが一つ。

あと三つ目は、先生方にぜひお願いしたいのは、仮につまらなかったという感想文が出てきても、なぜつまらなかったのかが上手に書けてあれば丸をつけてあげるという広い心をぜひ持っていただきたいなと思っておりまして。先ほど言ったように、みんな周りは本を読む子を育ててあげたいということを考えて、それも読書感想文は実はその一環であることは間違いなのですけれども、そういう方向で理解してもいいのかなと思いました。

〇委員長

ありがとうございました。ほかに、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

〇委員長

各委員の貴重な御意見ありがとうございました。

続きまして、津村教育長より、御報告をお願いします。

〇教育長

私のほうからは、第64回の大田区子どもガーデンパーティーについて御報告をさせてい

ただきます。

今年は、選挙の関係で例年より実施が遅くて、去る５月10日、日曜日に開催されました。青少年の健全育成に関する事務については、今年度から区長部局の所管になったわけですけれども、教育委員会の共催ということで従来どおり名を連ねておりますので、教育委員の皆様には開会式で主催者挨拶を引き続きお願いしたところでございます。お忙しい中、ありがとうございました。

当日は、御案内のとおりですけれども、晴天に恵まれまして、区内10会場で、多くの子どもたちや親子連れでにぎわいました。参加者数については、お手元に資料をお配りしておりますので、そちらを御覧いただきますと、子どもの数で前年比約5,000名の増、大人や協力者も入れた全体の数で約6,000名の増となりました。

私も７会場ほど見て回りましたけれども、それぞれ会場ごとの工夫が施されておりまして、子どものお祭りらしくこいのぼりをあげたり、それから、それぞれのコーナーではゲームや工作、昔遊び、エアー遊具のふわふわ、ミニ動物園、ローラー滑り台、土手スキー、空中ブランコ、アスレチックなど、盛りだくさんの出し物だったと思います。また、学校を会場にしたところでは、体育館のステージで手話ダンスや吹奏楽など、子どもたちの日ごろの練習の成果を発表するよい機会にもなっていました。

この子どもガーデンパーティーについては、昭和25年から営々と継続されてきておりまして、今回で64回を数えるわけですけれども、今回、改めて感じたことは、文字どおり子どものために地域総出、総がかりで行われているということで、子どものために、これだけの態勢が組まれるということはすばらしいことだし、地域の底力というものを改めて感じたところです。

また、その中でも中学生をはじめ、年長の子どもたちが支える側に回って活躍する姿がとても印象的でした。彼らがボランティアとして地域行事に関わり、ケアする役割を果たすことは地域力の担い手としてとても大切ですし、また、生徒自身が自分に有用感を持ち、ひいては肯定的に自己を捉えることにつながるという点でもとても意義深いことだと思いました。私からは以上です。

○委員長

御意見・御質問はありますか。

○鈴木委員

感想ですけれども、教育長は会場を７カ所ということで、大変お疲れだったと思います。私どもも各担当が５カ所に伺ったわけですけれども、たまたま私は、昨年はほかのところに伺ったのですが、今年度につきましては１カ所におりまして、逆に、深く見たいなということで中学生に関心を持ってちょっと接してきました。

おっしゃるとおり、吹奏楽ですとか、小学校も含めてそうですね、非常に増えていますね。各学校がほとんどがやるようになっております、今。また、中学生に関しては活躍する場、発表する場というよりは活躍する場として、そういった形でいろいろなことで子どもたちの世話ですとか、あるいは様々なことのＰＲに参加するとか、そういったお手伝いもたくさん出てくるようになりました。

たまたまこの日は非常に天気もよかったので、多分、人数もいつものときよりもたくさん出ております。そういった中で、私は地域とともに、これが64回も続いてきて、地域を含めた中での子どもの位置付けみたいなものがしっかりと備わっていくといいなとかねがね思っているのです。非常にすばらしい企画で、長い期間継続できていることがうれしいなと思っております。

たまたま私は萩中会場でしたが、萩中会場は公園と小学校・中学校を含めた、非常に環境に対して恵まれて、いい会場があるということがとてもうれしいのですけれども、他地区になりますと、会場については学校しか使えないとか、公園しか使えないだとか、そういったところもあります。それはそれなりの工夫をして皆さんずっと継続してやっていらっしゃるので、主催者というか、担当になられた地区委員会には非常に努力をなさっていることに敬意を表したいと思います。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。ほかに何か。

○藤﨑委員

もし、おわかりになる方がいればなのですが、当日すごくいい天気だったのですけれども、会場によっては木陰があるところとないところがあったと思うのですが、けがですとか、熱中症とか、そういうところの情報というのは、あったかなかったのか、もし御存じの方がいれば教えていただきたいです。

○教育長

所管のほうからの概略的な報告の中では、特に今御指摘のような熱中症ですとか、けがの報告はございませんでした。ただ、けがの問題については、大体この手のイベントをやると多少は出ることはございますので、厳密に確認すれば何らかのものがあったかもしれません。

○藤﨑委員

大きいとかというのは。

○教育長

そういうのはないです。

○藤﨑委員

はい。ありがとうございます。

○委員長

ほかに何か。よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○委員長

それでは、承認してよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長

では、承認いたします。

日程第２について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第２は「部課長の報告事項」でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長

学務課長からの報告をお願いします。

○学務課長

それでは、私からは、小・中学校在籍者数について御報告をいたします。

Ａ４、１枚の両面刷りの資料、平成27年５月１日現在、在籍者数一覧と記載してある資料を御覧ください。こちらにつきましては、前回の教育委員会定例会におきまして、４月７日現在の在籍者数について御報告を既にしているところでございますが、５月１日現在の数字について、学校基本調査に基づく確定数字が出ましたので、今後、この数字をもとに公表していくことになりますので、改めて御報告させていただきます。

それでは、表面の小学校から説明をさせていただきます。本区の児童数の総計でございますが、表の一番下を御覧ください。大田区立小学校在籍児童数総計は２万8,582人でございます。また、その右側にあります、大田区立小学校学級数総計は955学級でございます。平成26年５月１日現在と比較いたしますと、児童数で314人の増、学級数で14学級の増となってございます。

次に、裏面を御覧ください。中学校について御説明いたします。生徒数の総計でございますが、表が幾つかございますけれども、上の表の一番下を御覧ください。大田区立中学校在籍生徒数総計は１万1,154人で、その右側にあります、大田区立中学校学級数総計は342学級でございます。平成26年５月１日現在と比較いたしますと、生徒数で23人の微減となっておりまして、学級数については前年と同数でございます。

○委員長

ただいまの報告に、御意見・御質問はありますか。よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○委員長

それでは、承認してよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長

承認いたします。

これをもちまして、平成27年第５回教育委員会定例会を閉会します。ありがとうございました。

（午後３時00分閉会）